

下記の通り講演会を開催いたしますので、お知らせします。

日時：平成 25 年 9 月 2 日（月）13:30・16:30

場所：京都大学吉田キャンパス工学部総合校舎 111 講義室

参加費：無料（事前受付不要）

プログラム：

13:30 - 15:00 南 哲人 氏（豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所テニユアトラック准教授）

『脳波を用いた感性認知的研究：顔色情報処理を中心に』

15:00 - 16:30 船曳 康子 氏（京都大学医学部附属病院 精神科神経科 准教授）

『自閉症スペクトラムのばらつきと聴覚特性』

講演概要：

『脳波を用いた感性認知的研究：顔色情報処理を中心に』

南 哲人 氏（豊橋技術科学大学 エレクトロニクス先端融合研究所
テニユアトラック准教授）

われわれにとって、顔は重要な意味を持つ社会刺激であり、顔から非常に多くの情報を読み取ることで、円滑な社会生活を行っています。この日常生活に不可欠な顔情報処理に関して、これまで、形状処理を中心に調べられてきました。しかしながら、近年、顔の形状情報以外に、顔色や反射特性など顔の表面情報も顔認知に重要な機能を果たしていることが示されてきています。そこで、われわれは、これまで、顔の色情報が顔認知処理にどのような影響を与えるのかを調べるために、通常の色（肌色）から逸脱した顔色の視覚刺激を見たときの、脳活動について、脳波成分を中心に調べてきました。今回は、これら顔色に関する脳波研究を中心に最近の研究結果を紹介します。

『自閉症スペクトラムのばらつきと聴覚特性』

船曳 康子 氏（京都大学医学部附属病院 精神科神経科 准教授）

自閉症、アスペルガー障害などを含む広汎性発達障害が、ひとくくりに自閉症スペクトラム障害と総称されるようになりました。ただ、このような言葉で、簡単には理解できない差異がみられるのが、実際のところ。その差異について、個人差、評価者間の差、状態差という多角的な観点からデータを紹介します。特に最後の状態差ですが、NIRSを用いて、自閉症スペクトラムの方の音声に対する脳反応を示し、聴覚過敏なのか鈍麻なのか、聴覚野の機能不全があるのか、などにつき考察します。